

# パパと呼ぶ声 取り戻したい

長男(7)の親権者を母親から父親に変更することで、母親の意向でかなわなかった長男と父親の面会交流実現に道を開いた福岡家裁の家事審判。3歳まで一緒に暮らし、無邪気によく笑った長男は今、その笑顔をなかなか見せてくれなくなった。だが、それでも40代の父親は言う。「父親の愛情を知ってほしい。それが子供の将来のためにもなると思うから」。親子関係のつむぎ直しは始まったばかりだ。

【鈴木一生】

1月下旬、福岡市博多区のJR博多駅前広場。家裁決定後初の面会交流は、長男の厳しい言葉で始まった。「父親らしいことを何もしていないのに、血がつながっているだけで何で面会しなければいけないの」

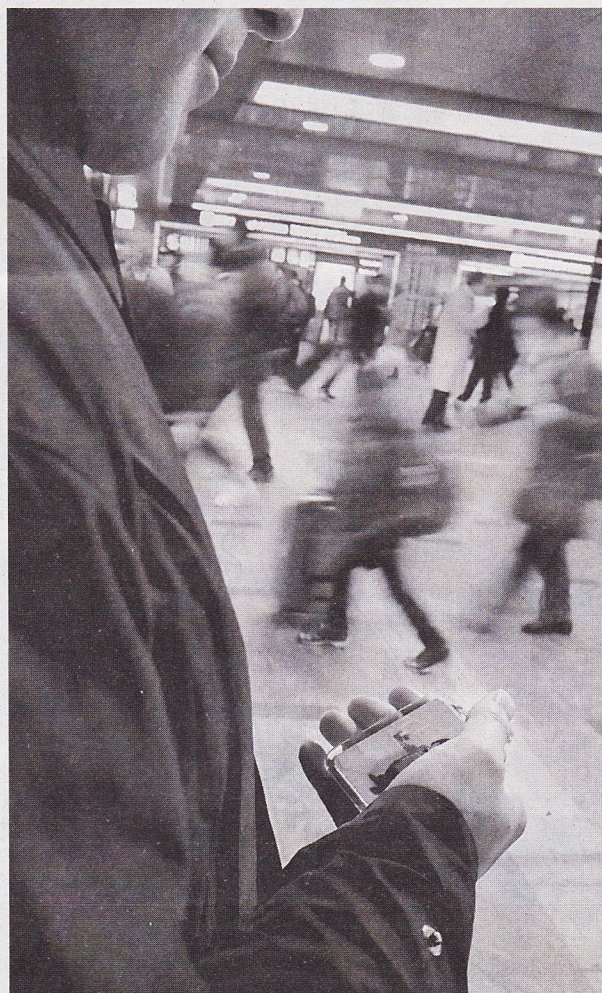
ほぼ一年半ぶりに会った長男の口調が随分大人びたように聞こえ、父親は戸惑った。「これから父親らしいことをさせてね」。笑って頭をなでたが長男の表情は緩まなかった。

同居していた時は幼い長男にミルクを飲ませたり、オムツを交換したりした。保育園に通い始めると、毎朝園まで送ってから仕事先に向かった。

3歳の時に別居し、面会交流するようになった後もしばらくは長男との絆は変わらなかった。長男と会い、別れの時間が近づいて涙

## 面会交流理由に親権変更

# 父親 長男養育に希望



父親は長男の写真がついたキーホルダーを手に待ち合わせ場所を訪れる

福岡市博多区の博多駅で、和田大典撮影

ぐむと、長男は泣いて言った。「パパも一緒に帰ろう」

しかし、次第に長男は変わった。「パパ」ではなく「〇〇さん」と名前で呼ぶようになった。やりきれず、胸がふさがれるようになった。

福岡家裁の家事審判は、親権者を母親から父親に変更すると同時に、父親と長男の月1回の面会交流を許すよう母親に命じた。同居

当時の積極的な育児への関与を、家裁が認めてくれたからだ」と父親は思っている。「母親も悪意から面会交流を拒否させたのではないと思う。子供を巻き込まずに養育を第一に考えたい」。今後は親権者として、長男が通う

## 「子供を第一に判断を」

小学校に成長過程を問い合わせることもできる。今は月1回の面会だけだが、再び養育にかかわる希望もある。

親権を得て、ようやく再会できた長男の表情は硬かったが、人気アニメの話をした時だけ口元が緩んだ。一緒に過ごした時間はわずか1時間。長男を見送った後、男性は肌身離さず持ち歩くキーホルダーを握りしめた。1歳半の長男の写真が収められている。「時間はかかるだろうが、少しずつまた父親に戻っていきたい」

離婚などで子供と離れて暮らす親が、面会交流を望んで家裁に調停を申し立てるケースは年々増加している。最高裁によると、昨年の申立件数は1万1312件で、10年前の約2.5倍。調停と審判を合わせた終結件数は、母親からの申し立てが3221件、父親は倍以上の7333件で、申立者の大半が父親である実態を裏付ける。

一方、面会交流を認めるかどうか、慎重に判断すべきだという意見もある。今回の審判で男性の代理人を務めた清源万里子弁護士(大分県弁護士会)は「家庭内暴力や虐待など、子供にとって面会交流がよくないケースもある。子供に何が一番良いか、両親双方の代理人や家裁調査官などがきめ細かく調べて判断するのが重要だ」と指摘している。